1. 現状と課題

当社は〇〇県〇〇市で自動車部品の切削加工を行う従業員12名の企業である。主な取引先は県内の部品メーカー3社で、月間の出荷は約180品番・約9万個である。

受注は増えているが、出荷前の箱詰めと数量カウントに1日240分（4時間）を要し、検査担当2名が残業で対応している。数量は手作業で数えて箱に詰め、1箱ごとに員数票を書いている。2026年8月の2週間、出荷日報に開始・終了時刻を記録した実測では、1日あたり平均238分だった。

この工程が詰まると出荷が翌日にずれ、取引先からの納期の問い合わせが月に5〜6件ある。また、試作品の依頼は月6件ほどあるが、検査担当が箱詰めに追われて段取りに入れず、受けられているのは月3件で、残りの月3件は断っている。

人手を増やす方法も検討したが、地域の求人は競合が多く、過去1年で応募は2名、採用は0名だった。人を増やすのではなく、作業そのものを減らす必要がある。

SAMPLE

2. 導入する設備と省力化の内容　3. 実施体制とスケジュール

2. 本事業では自動計数包装機（○○社製・箱サイズ3種に対応）を1台導入する。部品を投入すると数量を自動で数え、指定数ごとに箱へ詰めて員数票を印字する。

【省力化の内容】

・箱詰め・数量カウント：1日240分 → 40分（機械への投入と箱の交換だけになる）

・材料投入：1日90分 → 60分（計数機と連動する搬送台を使う）

・合計：1日330分 → 100分。1日230分（省力化指数70%）の作業時間を減らす

導入後の分数は、メーカーが示す処理能力（1分あたりの計数・箱詰めの個数）と当社の月9万個の出荷量から計算した。

【機種を選んだ理由】3社から見積を取り、①当社の箱サイズ3種に対応している、②保守拠点が県内にあり翌営業日に来てもらえる、③価格が見合う、の3点で比べて選んだ。手作業に戻せる配置にし、故障時も出荷を止めない。

3. 実施体制：工場長が設備の選定と設置の管理を、検査担当2名が操作手順の作成と試運転を担当する。設置は2027年9月、試運転を10月に行い、11月から本稼働する。操作手順書を作り、担当以外の従業員3名にも操作を教える。

SAMPLE

省力化で生まれた時間の使い方と、付加価値・賃上げの見通し

【生まれた時間の使い道】浮いた1日230分のうち、検査担当2名の時間を試作品の段取りと検査に充てる。いまは月6件ほどの依頼のうち3件を断っているので、受注を月3件から月6件へ増やす。1件あたり平均18万円で月54万円、年間648万円の売上増、粗利は約3割で年約194万円を見込む。試作から量産につながった実績は過去3年で4件あり、量産の受注にもつながる。

【働き方】残業は検査担当2名で月計40時間減り、年間約96万円の残業代が減る。出荷の遅れによる納期の問い合わせ（月5〜6件）も無くす。

【付加価値と賃上げ】前期の付加価値額は6,000万円（営業利益850万円＋人件費4,600万円＋減価償却費550万円）。人件費削減（年間184万円相当）と試作の粗利により、年率4%で3年後に約6,750万円を目指す。労働者数は14人（従業員12人＋役員2人）で変えないため、労働生産性（付加価値額÷労働者数）も年率4%で伸びる。

賃上げは、1人当たり給与支給総額を2027年度から年3.5%ずつ引き上げる計画を2027年4月に社内に掲示する。事業場内最低賃金は地域別最低賃金＋40円を維持する。

3年後には、計数機の稼働データ（品番ごとの処理時間）を使って工程ごとの原価を把握し、見積の精度を上げる。

SAMPLE

工程別の作業時間・年間効果・投資回収

【工程別の作業時間】
箱詰め・数量カウント：現状240分/日 → 導入後40分/日（▲200分）
材料投入：現状90分/日 → 導入後60分/日（▲30分）
合計：330分/日 → 100分/日（省力化指数70%）
【年間の効果】
年間稼働240日×230分÷60×時給2,000円換算＝約184万円の人件費削減
試作の売上増：月3件→6件、1件18万円、年間648万円
試作の粗利：648万円×約3割＝年約194万円
【投資と補助】
設備費1,100万円（税抜）。補助率2/3（小規模事業者）の場合の補助額：約733万円（従業員6〜20人の上限1,500万円の範囲内）
投資回収期間：1,100万円÷184万円≒6.0年（人件費削減のみ）。試作の粗利（年約194万円）を含めると1,100万円÷378万円≒2.9年
【付加価値額（営業利益＋人件費＋減価償却費）】
前期：850万円＋4,600万円＋550万円＝6,000万円
3年後の計画：年率4%で約6,750万円（人件費削減と試作の粗利、賃上げ3.5%を織り込む）
【労働生産性（付加価値額÷労働者数）】労働者数14人（従業員12人＋役員2人）。年率4%の伸び（条件は年平均4.0%以上）
【賃上げ】1人当たり給与支給総額の年率3.5%増（2027年度から・2027年4月に社内に掲示。条件は年平均3.5%以上）。事業場内最低賃金は地域別最低賃金＋40円（条件は＋30円以上）
※数字は自社の実測値・見積・決算書に置き換える。条件の数字は公募要領（第9回公募）のもの。

SAMPLE

聞かれそうなことと、答えの材料

Q. 現状240分はどう測りましたか？

A. 2026年8月の2週間、出荷日報に開始・終了時刻を記録した実測値です（平均238分）。日報の写しを添付します。

Q. なぜこの機種ですか？

A. 3社から見積を取り、当社の箱サイズ3種に対応し、保守拠点が県内にある機種を選びました。

Q. 浮いた時間は本当に試作に使えますか？

A. 試作の依頼は月3件を断っている実績があり、担当2名の時間を試作の段取りと検査に割り当てる計画を作っています。

Q. 賃上げはどう担保しますか？

A. 2027年4月に全従業員へ書面で表明し、就業規則の賃金規程を改定します。

Q. 機械が止まったら？

A. 保守拠点が県内にあり、翌営業日に対応してもらえる契約です。止まった間は従来の手作業に戻せます。

SAMPLE

よく指摘される点の確認

☑ 作業時間は「実測」で、測った期間と方法が書いてある

☑ 導入後の時間は、機械の仕様（処理能力）から計算した根拠がある

☑ その1とその2が同じ文章の繰り返しになっていない

☑ 浮いた時間の使い道が、売上や付加価値の数字につながっている

☑ 賃上げの計画と、表明の時期・方法が書いてある

☑ 見積は3社から取り、選んだ理由が書いてある

☑ 投資回収期間の計算式が示してある

※この見本は架空の事業者です。自社の実測値・見積・公募要領で置き換えてください。

この見本は架空の例：金属部品の加工業（従業員12人）。出荷前の箱詰めと数量カウントを自動計数包装機に置き換える。モラエタが架空の事業者と数字で作った例で、採択実例ではありません。実際の下書きは、本人の答えと数字だけをもとに作られます。

SAMPLE